議 員 全 員 協 議 会

日　　時	令和５年８月 24 日（木）　閉会中	10時57分　開会 12時07分　閉会
場　　所	相良庁舎４階　大会議室	
出席議員	議長　16 番　植田博巳　　副議長　15 番　村田博英	
	１番　石山和生　　２番　谷口恵世　　３番　絹村智昭	
	４番　名波和昌　　５番　加藤　彰　　６番　木村正利	
	７番　松下定弘　　８番　種茂和男　　９番　濵﨑一輝	
	12 番　太田佳晴　　13 番　中野康子　　14 番　大石和央	
欠席議員	10 番　原口康之	
事　務　局	局長　田形正典　　次長　本杉裕之　　書記　植田容子	
説　明　員	（一社）まきのはら活性化センター：理事長　大石勝彦 事務局長　加藤　智	
傍　　聴		

署名　　議長

〔午前　10時57分　開会〕

開会の宣告

○議長（植田博巳君）

ちょっと11時より早いですけれども、皆さんお集まりですので、ただいまから議員全員協議会を開催いたします。

２　協議事項　（１）　一般社団法人まきのはら活性化センター
令和４年度事業報告・令和５年度事業計画について

○議長（植田博巳君）

それでは、今日の協議事項といたしまして、一般社団法人まきのはら活性化センターのほうから、令和４年度の事業報告並びに令和５年度の実施計画についてご説明をお願いいたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

理事長。

○まきのはら活性化センター理事長（大石勝彦君）

皆さん、こんにちは。本日は副市長ではなく理事長として出席をさせていただきました。

本日は、活性化センターの事業活動につきまして、こうやって皆様方に知っていただく時間をいただきましたことをありがとうございます。

本日は、先ほど議長からもお話ありましたとおり４年度の事業報告と、それから今年度の実施計画についてご説明をさせていただきます。

活性化センターの目的そのものにつきましては、皆様、既にご承知のとおりですけれども、活力にあふれ個性豊かな地域社会の実現を目指して、まちづくり、人づくり、仕事づくりを実行するということとしております。

コロナ禍も大分落ち着きを取り戻して、日常に近づいてきております。空港にも外国路線が就航するという話も出てきておりまして、インバウンドを含めて、お客様がいっぱいいろいろ動いているという状況になってきておりますので、こうした需要はしっかりと捉えて、市の社会、経済の活力に取り組んでいかなければならないというふうに考えております。

そういうことで、活性化センターとしましては、行政的に言えば、主にシティプロモーション、あるいは観光振興、そして産業振興といったことを中心に実行していくということになりますが、いずれにしても市の魅力をしっかりとＰＲをして、草競馬をはじめとしまして、宿泊キャンペーンであるとか、プレミアム商品券であるとか、あるいはふるさと納税といった具体的な事業を推進していくということで、平たく言えば、市内の事業者の皆さんにお金が回るような仕掛け、仕組みをつくっていくということであるというふうに認識をしております。

本日は、先ほど申し上げたとおり、活性化センターの具体的な事業内容につきましてご説明を

させていただきますので、加藤専務理事からご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○議長（植田博巳君）

加藤専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

本日は、貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます。

私からは、まず令和４年度の事業報告ということで、送らせていただいております資料を基に、ご説明をさせていただきたいと思います。

タイトルが、一般社団法人まきのはら活性化センター令和４年度事業報告でございます。

では、ご説明をさせていただきます。

１の観光振興事業ということで、こちらは当センター、観光協会から引き継いでいる事業という中で、（１）さがら草競馬大会ということで、令和４年度につきましては、４月26日、こちらは、あいにく雨天ということで、ちょっと時間も早めて開催をしたと、短縮して開催させていただきましたけれども、参加いただいた馬がサラブレット８頭、中間馬８頭、ポニー10頭、あとは速歩・引き馬16頭ということで、39頭の馬に参加をいただきまして、予選９レース、決勝９レースの18レースを実施させていただきました。

３年ぶりの開催ということで、第44回ということでございましたけれども、サラブレットのやはり迫力あるレースや、ポニーレース、小学生以下のお子様が参加をいただきました人間草競馬も大変好評で、市内外よりの約5,000名の観客の方に楽しんでいただきました。

また、活性化センターの会員を含めて市内の飲食店22店舗が出店をいただきまして、地元のグルメの販売も好評でございました。

では、次ページをお願いいたします。

（４）ＲＩＤＥ　ＯＮ　ＭＡＫＩＮＯＨＡＲＡ～夢に乗るまち牧之原～いい波（1173）に乗ろう！さがら海上花火大会2022ということで、こちら９月３日に開催をさせていただきました。

まだコロナ禍というところでございましたので、市役所職員30名にボランティア協力をいただきまして、検温と手指の消毒等、コロナ対策を徹底しまして開催をさせていただきました。

こちらは、91店舗の店舗が軒を連ねて、また市民団体によりますよさこい演舞２曲を踊っていただきまして、今まででも最高の来客数となります約１万人の方に来場いただきまして、すごく盛り上がった花火大会となりました。

また、Ｗｅｌｃｏｍｅ花火ということで、榛原地区につきましては５回の実施という中で、それこそ王位戦の前夜祭、または中小企業家同友会榛南支部との共同開催をした花火大会、また、カリッサ・ムーア選手に再来日いただきました11月３日と、計５回の打上げをさせていただいております。

また（６）としまして、今、元旦の花火ということで注目をいただいておりますけれども、１月１日に安全祈願ということで、初詣祈願祭を開催させていただきました。

また、こちらにつきましても約120発の打上げ花火をさせていただきまして、先ほど言いましたように珍しい花火ということで、Ｋ－ＭＩＸラジオでも紹介をいただいた事業でございます。

また、次ページに行っていただきますと、例年実施しております勝間田川の桜のライトアップ、また山梨県・長野県からも来ていただくための誘客事業ということで、例年どおりの事業と、（９）にありますように、環境美化活動ということで、さがらサンビーチ、静波海岸の海岸清掃も皆様方のご協力もいただきながら開催をさせていただきました。

次ページをご覧いただきたいと思います。

２番のＲＩＤＥ　ＯＮ　ＭＡＫＩＮＯＨＡＲＡ誘客キャンペーンの委託事業でございます。

こちらは、市からの事業を受託させていただきまして、コロナ禍で疲弊する観光、宿泊、飲食事業等の経済支援と市のＰＲを目的としまして、全国からの誘客を実施いたしました。

期間としましては、９月１日から１月10日までということで、やはり広報宣伝が重要という中で、山梨、長野へのキャラバン、またＳＢＳテレビのＣＭ放送、Ｋ－ＭＩＸラジオ放送でのＣＭ放送、その他グーグル、インスタグラム、フェイスブック等で、Ｗｅｂでの広告をさせていただきまして、目標であります5,000名を超える宿泊をいただいたと。

（２）にありますように、都道府県別の宿泊人数ということで、やはり多いのは静岡県でございますが、見ていただきますと神奈川とか埼玉、こちらは今、合宿、特に牧之原市ソフトボール等、盛んでございます。そういった合宿等でも活用いただきまして、市内のスポーツ店でサッカーボールを買っていただいたりということで、チームで参加していただいたりということで、多くの方に参加をいただきましたと。

②にありますように、商品券の使用実績の内訳でございます。宿泊施設が67％、スーパー・薬局等で16.3％、飲食店3.4％、ガソリンスタンド2.0％、その他地域事業者11.3％ということで、地域に還元を、地域の経済活性につながった事業だと感じております。

次ページをご覧いただきたいと思います。

３番のふるさと納税事業でございます。こちらにつきましては、納税件数は前年対比マイナス764件の２万529件でございましたが、寄附金額はプラス740万5,521円ということで、３億6,000万円を少し超えたという実績でございます。

人気の返礼品としましては、現在もそうですけれども、黒烏龍茶ということで牧之原茶葉を使ったペットボトル500ミリリットル48本セットが一番多くて、1,860件の納税をいただいたと。その次に、冷凍イチゴということで、あとイチゴが牧之原市の人気主力商品となってございます。

事業者別の納税件数割合ということで、（４）にございますように、３月末現在で117の事業所がございますけれども、1,000件以上の寄附というんですか、返礼品の申込みがあった事業者が３事業者と、100件から999件の返礼品の申込みがあった事業者が20事業者、17.1％というような状況で、今、寄附のほうの事業者のほうも、その件数を１件でも増やすように、皆さん事業者も勉強会等の参加をいただいているというところでございます。

納税件数の増減ということで（３）でございますけれども、納税件数が令和３年度と比較しま

して、増えた事業者は86事業者、73.5％、増減なしが20事業者、17.1％、納税件数が減少したという事業者が11事業者、9.4％という割合でございます。

事業内容としましては、当センターとしまして、やはり新たな事業者、生産者の勧誘ということで、昨年ですと16事業者が新しく参加をいただいたと。返礼品もやはり納税の中では、かなり重要なポイントでございます。そういった中で15品目が新しく追加をいただいたというところでございます。

また、納税につきましては、令和３年度までは楽天とふるさとチョイスだけでございましたけれども、ふるなび、ふるさと納税ニッポン、２サイトと自動販売機、計５サイトで、今、納税ができる状況となっております。

また、やはりふるさと納税は、市への応援と返礼品の魅力というのがポイントでございます。そういった中で、広告会社のココホレジャパンという会社と連携をしまして、生産者や事業者のこだわり、栽培方法や製法等を調査していただきまして、マーケティングの調査、プロモーションまで実施をいただきました。現在、楽天での広告等もリニューアルをさせていただきまして、またＲＰＰ広告ですとか、Ｗｅｂの活用並びにインスタグラムを使った情報発信も、社員が勉強しまして、インスタ等も始めさせていただいているというところでございます。

また、ここで言います楽天でのＲＰＰ広告というのは、どれだけの方がその返礼品というか、物を見ていただいたか、それがどれだけ寄附につながったかという広告でございます。

次ページをご覧いただきたいと思います。

⑤としまして、事業者を対象とした勉強会の実施ということで、やはりこのふるさと納税は事業者の返礼品の魅力というものが納税にかなり大きく左右されます。

そういった中で、事業者様もやはり農家の皆様方も多いというところの中で、販売をなかなか今までやったことないよという方も多かったものですから、４月５日にはトラストバンクというのが、ふるさとチョイス経営会社でございます。そこから、講師、横山先生をお招きしまして、「寄附につながる！イチからわかるふるさとチョイス活用方法」ということで、ふるさと納税の活用につきまして、どういう写真を撮ったらいいか、どういう写真をアップしたらいいか、どういう広告宣伝をしたらいいかというものを勉強していただきました。

また、10月24日には「成功事例から学ぶふるさと納税制度の活用方法」ということで、石神農園の石神代表と、イトウシャディの伊藤代表に講師になっていただきまして、どのようにお客様、ファンを増やすかと、ファンをつかむ勉強を学んでいただいたというところでございます。

また、会員事業者９社に対しまして、設備投資、新商品開発等の補助金を交付させていただきまして、設備投資で４事業者、新商品開発に２事業者、ラベル・パッケージデザインの開発ということで３事業者の活用いただきまして、今年度の新商品としても、新しく商品登録をしていただいたというところでございます。

４番としまして、活性化センター独自事業ということで、先ほど言いましたように会員の皆様、農家の皆様等が多い中で、なかなか販売に行けないといったようなこともあります。

また、イベントに旧観光協会のつながりもあってお呼びいただいてるところもございますので、イベントを特産品や市内で製造される自慢の商品をお預かりしたり、また一緒に参画をしていただいて農産品、特産品のＰＲ、またふるさと納税のＰＲを実施させていただきました。

そこにあるのは、参加したイベントの一部でございます。

次ページをご覧いただきたいと思います。

地域活性化支援事業ということで、市内事業者が製造しますお弁当や商品パッケージ等のイラストデザインの企画からステッカー作成等による販売支援も実施をいたしました。

また、令和３年度に市内小中学校の先生方より受注いただきましたスタッフジャンパーの作成等も実施をさせていただいたり、缶バッチですとか、グラウンド整備、こちらそういった重機の運転の免許を持っている者もおりますので、そういった作業等の収益事業も実施をさせていただいております。

また、シティプロモーションということでＲＩＤＥ　ＯＮ　ＭＡＫＩＮＯＨＡＲＡのグッズの企画販売ということで、ポロシャツ、Ｔシャツ、トートバッグ等、また、飲食店に使っていただいておりますコースター等も、そこにありますような形で販売等もさせていただいております。

また、ちゃっきり茶太郎茶ということで、令和４年、それこそ橋幸夫様が牧之原茶の親善大使を務めていただいておりましたので、ちゃっきり茶太郎茶ということで商品プロデュースをしまして、コンサート会場等でリーフ茶 1,102 袋、ティーバック 676 袋などをコンサート会場等で販売をさせていただきました。残念ながら、５月に橋様のほうが歌手活動を終了したということで、こちらのお茶の販売等は権利がなくなってしまったので、今、製造販売ができないという状況になってございます。

事業報告につきましては、以上でございます。

○議長（植田博巳君）

続いて、５年度の事業も、聞いていいですか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

じゃあ、引き続いてやってください。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

引き続きまして、令和５年度の事業計画につきまして、ご説明をさせていただきます。

基本方針としまして、当センターにつきましては、令和５年４月１日に設立５年を迎えました。

さがら草競馬大会や市内花火大会並びに静波海岸・さがらサンビーチでの海水浴場やサーフィンやサップ等のマリンスポーツ体験など観光事業による誘客だけでなく、事業者の皆様が愛情込めて栽培された農産品、独自の発想と技術で製造された優良な商品につきまして、ふるさと納税を通じて全国に発信することで、シティプロモーションにもつながり始めております。

当センターとしましては、新型コロナウイルス感染症が第５類に移行されたことで、全国でも唯一無二の砂浜を周回するさがら草競馬大会や、市民の皆様から好評の市内花火大会、さがらサンビーチ・静波海水浴場やサーフィンなどレジャー情報の積極的な情報発信を継続するとともに、

新たな誘客イベントを会員事業者と企画していきます。

また、ふるさと納税事業についても、令和４年度現在、寄附額３億6,000万円の状況でございますが、４億円、５億円と伸ばしていくため、市の特産品であるお茶の情報発信以外にも、人気の高いイチゴなどの果物、今後、返礼品として選ばれる可能性が高いウェイブプール利用券や市内宿泊施設の宿泊券、食事券など、牧之原市にお越しいただき利用いただく返礼品メニューも事業者の皆様や各団体の皆様と連携し、新商品開発と情報発信を強化していきます。

令和５年度、会員の皆様をはじめ、事業者や市民の皆様に必要とされる事業所となるため、職員一人一人が目標を持って成長していくよう、事業計画に沿った事業を着実に実施をしているところでございます。

観光事業につきましては、（１）地域イベントの企画、運営ということで、令和４年度実施した事業と同様で、草競馬、さがらサンビーチの水難供養祭、また海水浴場の海開き等は実施済みでございます。また、９月２日、花火大会ということで、その準備を今、進めておるところでございます。

また、誘客宣伝活動ということで、（２）でございます。こちらにつきましても、７月11日に山梨放送のラジオ出演ということで、誘客キャンペーン等を含め市内の海水浴といったもののキャンペーンを行ってまいりました。また、イベント出店ということで、こちらも積極的に出店ということで、４月にも２件、今週もイベントにも出店してまいります。

また、（３）にありますように、ポスター、広告ということで、今年は海水浴場のポスター等も作成をさせていただいて、見ていただいて分かるというところの中で、やはりポスター広告等も必要でございますので、そういったものも作成をしながら、またＳＮＳの活用もしながら、観光誘客のＰＲをさせていただいております。

次ページをお願いいたします。

誘客キャンペーンにつきましては、７月15日から第１弾を開始させていただいております。昨年を上回る山梨、長野からのお客様も来ていただいているという状況の中で、９月１日からは全国を対象としたキャンペーンとなりますので、こちらにつきましても広告宣伝等を強化し、１万人の方に牧之原市にお越しいただくように、引き続き取り組んでまいります。

３番のふるさと納税事業につきましては、先ほどありましたように、事業者の返礼品につきましてＰＲの強化等を引き続き実施しているとともに、また、新しい事業者の発掘等も会員の皆様、また、ふるさと納税参加の皆様とも協力をいただきながら、今、拡充を図っております。

令和５年度は、寄附額４億5,000万円を目標にしてございますので、引き続きの事業に取り組んでまいります。

次ページをご覧いただきたいと思います。

取り組む内容としましては、人気返礼品の充実ということで（１）にありますように、イチゴが今は49.5％を占めております。そういったところからも、今、農協が力を推しておりますし、またメディアからも注目されています。「きらぴ香」を中心に宣伝強化を図っていきます。

また、（２）としまして、商工会が実施する夢コンテストということで、こういったところで新しい商品の開発もいろんなところで行われております。そういったものも、連携、強化をして、さらに納税に努めていきます。

（３）にありますように、こちらのスキルアップの勉強ということで、事業所を対象とした勉強につきましても、商工会と連携をし、より多くの勉強機会をつくってまいります。

（４）につきましても、昨年以上のイベント参加を予定されておりますので、物産品を試食等もできますので、そういったものの中で、返礼品のＰＲを事業者とともに努めてまいります。

また、活性化センター事業につきましても、地場産品の販売等で、先ほどありますように各種イベントに積極的に参加しＰＲのほうを努めてまいります。特に大きな点としましては、８月26日、大井川花火大会ということで、近隣の観光協会、これは島田の観光協会でございますけれども、近隣の観光協会とも今年度は連携をし、よりＰＲの機会、またインバウンドも進んでまいります。静岡県の地域として、多くの海外のお客様にお越しいただけるように取り組んでまいります。

（２）の地域活性化支援・物品販売事業ということで、こちらも今までと同様、事業者様からいただいたオーダーに社員全員で応えられるように、また会員事業さんも連携して、放置竹林の活用ですとか、新しい商品開発等も実施してまいります。

また、（３）インバウンド推進事業ということで、先日も浙江省から政府団の方がお見えいただきました。また、７月には、こちらも湖南省から中学生、小学生が約19名ほどお越しいただいて、海の体験、スイカ割り体験ということで、多くの今お問合せもいただいております。こちらも収益事業として、今まで以上に取り組んでいき、やはり今、宿泊先が牧之原市の場合、旅館というところの中で受入れをしたい事業者等もおりますので、勉強会を市と連携して実施をさせていただいて、インバウンド対応できる宿泊施設といった事業者の育成にも努めていくというのが今年度事業でございます。

私からの説明は以上でございます。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございました。

活性化センターにおかれましては、観光産業等で誘客を積極的にやっていただきましてありがとうございます。あと、ふるさと納税についても、昨年が3.6億円、今年は4.5億円を目標ということで、積極的に取り組んでいただいてると思います

皆さんのほうから、ご意見とか、ご提案とかありましたら、お願いいたします。

木村議員。

○６番（木村正利君）

活性化センターにおかれましても、今回、理事長が副市長ということの中で、いろんなイベントをやっている中で、目標値、前回も言ったんですが、今ここのところのふるさと納税のところを４億5,000万円という目標を立てた以上、それを必達するための施策というのをもうちょっと

やっていただきたいという中で、昨年もちょっと言ったんですが、商工観光課と含めて、ふるさと納税、私どももちょっと入れたりしている関係上、こういうものに使われたよとか、そういった市とふるさと納税のところの積極的にアピールしていく。

他市町でふるさと納税すると、いろんなもののリピートが市から入ってくるんですね。こういうものだよとかと。そこを活性化センターと合わせたときに、商品化のＰＲをやっていけば、もうちょっと売上目標が達成するんじゃないかなと私は考えているんですが、そういったところ行政側とちょうど民間のところの発想の仕方というのも、計画して４億5,000万円の必達目標をぜひ上げていただきたいなというふうに思っているんですが、そこら辺もぜひ、また新しい展開を、ここの売上げを上げることが地域活性化につながるかなと私は思っていますので、ぜひそこら辺も前向きに市と連携しながら、市の魅力発信というものを、いただいたお客様に対するＰＲの仕方を工夫していけば、これがリピーターになって、もっともっとインフルエンサーが増えていくかなと考えていますので、ちょうど今回、理事長が副市長になりましたので、ぜひその市との連携、こういうものに使われたよというと、私もほかの他市町のふるさと納税をしている中で、やっぱりうれしいですよね。だから、やっぱりそこら辺をＰＲの仕方をやっていくと、もっと売上げが上がるんじゃないかなと考えていますので、ぜひそこら辺をご検討いただければ。

○議長（植田博巳君）

大石理事長。

○まきのはら活性化センター理事長（大石勝彦君）

ありがとうございます。

おっしゃることは本当にごもっともで、市との連携は非常に大事なことだと思っておりますので、私は理事長になりまして、最初に活性化センターの７人の職員の皆さんに話をしたときに、これから市と本当に一体となって、情報共有も含めてしっかりと対応していきましょうと、そのためには風通しのいい組織が必要ですから、皆さんでいろいろ話合いをしながら意見を出し合って、対応していきましょうという話をさせてもらいました。

具体的な話は、また、加藤から。

○議長（植田博巳君）

加藤専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

私からも、昨年まで、やはり定期的な意見交換というところで市とは月１回の情報交換はやっていたんですけれども、今年度につきましては、市の職員が定期的に１週間に一、二回という形で来ていただいて、今、そこは密にして商品開発を含めて、また、今は市だけではなくて、商工会とも連携をしまして地場産品部会ですとか、補助金等も、例えば重複するようなものがありましたので、そういったものを整理させていただいて、今度やります夢コンテストというのは商工会がやる事業でございますけれども、そういったところでつくられた商品を、補助金は商工会で、センターはそのＰＲで費用を使わせていただいて、市を代表する返礼品というような形でＰＲし

ていこうという形で、市と商工会、その他、ＪＣを含めて、連携強化を今年は努めてまいりたいと思いますので、またお力添えをいただきたいと思います。

○議長（植田博巳君）

ほかには。

濵﨑議員。

○９番（濵﨑一輝君）

私のほうから１点ですけれども、花火大会についてちょっと意見を言っていきたいなと思うんですけれども、前回と、この間の全協の中でも意見を言わせていただいたんですけれども、花火大会自体が、昨年は相良に関してはサンビーチの花火大会と、榛原側に関してはＷｅｌｃｏｍｅ花火が５回ということでやりましたけれども、今年度に関しましては相良の花火大会があって、榛原側に関しましてはＷｅｌｃｏｍｅ花火が１回しかないということで、これに関して榛原側の地域住民の方から、結構お叱りの声をいただいてるんですね。

何でこんなに相良ばかりやるんだというところがあって、ただ、その件に関しては、この間、説明を聞いたものですから、相良に関しては地域住民の方々が200円ずつ寄附をしていると。警備員に関しても、警備の方とかもボランティアをやっていただいていて、それに対して静波側に関しては有料で警備をやらなきゃいけないということで、かなりお金がかかるということ、それは分かったんですけれども、そういった中で、市長のほうからも話がありましたけれども、榛原側に関しましては、龍眼山花火大会があって、これは一丁目町内会がやっていますけれども、今年は15分ということで短めでしたけれども、そういったところと連携しながらやるというのも一つの案だということが提案があったものですから、私もそれはいいなと思いました。

それも含めて、Ｗｅｌｃｏｍｅ花火を、例えば去年やったみたいに５回に分けるとかという、そういう方法でもいいと思うし。

いずれにしても、榛原側でもしっかりとした花火大会をやっていただきたいというところで、牧之原市一つといっても、やっぱり昔からの静波の花火大会があるものですから、それを残してもらいたいという声が結構大きいものですから、そこはぜひ検討していただきたいというところとともに、全部決まってから報告されてしまうと、我々もどうしようも言いようもないというのがあるものですから、途中経過を今、榛原側でこういうことを検討しているとかというのも、ぜひ教えていただきたいなと。

そういったところがないと、いろんな声を聞いても私も行政側に届けることができないものですから、特にこの花火大会に関しましては活性化センターさんが主催でやっているということがあるものですから、ぜひともそういったものに関しても途中経過を教えていただきたいとともに、ぜひとも榛原側でも花火大会をお願いしたいというところでございます。

○議長（植田博巳君）

榛原地区のほうの花火について、どういう計画かということだと思いますけど、お願いします。

加藤専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

私から説明を申し上げます。

当センターも、花火につきましては、寄附金がやはり重要な、開催に当たって必要という中で、昨年、実は同友会様と連携をさせていただいて180万円を超える寄附を頂きましたので、打上げができたと。

今年度につきましては、実際83社で約80万円という中で、企業の皆様方、コロナが５類に移行されたという中でも、かなり厳しいということで、また、龍眼山の花火というところとの連携も、打ち上げられる制限というのもあったりとかする中で、担当とも一丁目の町内会の方ともお話させていただいて、来年度はちょっと連携をしながら、もう少し花火を増やせるところまで増やしましょうというお話をさせていただきました。

ちなみに、相良につきましては328社、330を超える寄附をいただいているというところで、この違いでやはり相良は逆に区民の皆様からは、ぜひそちらの寄附は相良で使っていただきたいというような、会員も含めてご意見をいただいているという中で、また、今、一丁目と今後は寄附もそれぞれでいきますと、事業者様からすると、また寄附が何件も催促が来るということでなってしまいますので、そこの寄附の集めも含めて連携をさせていただきたいと思っております。

私も、できればこの２か所で上げることが一番理想だと思っておりますので、寄附活動を含めて、計画、会員等も含めて相談してまいりますので、またご協力いただきたいと思います。

○議長（植田博巳君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

山梨、長野県のほうは海のない県ということで誘客キャンペーンを毎年やっていると思うんですけれども、宿泊数を見ると、そんなに伸びていないかなといつも思っています。

海のない県ということでずっと言っているんだけれども、東京都なんかを見るとすごく453名も来てくださっている。やっぱり都会の人たちがこれだけ牧之原市で宿泊してくださるということは、ウェイブプールなんかの宣伝というか、サーフィンを広めるような、そんな誘客なんかの方法もちょっと考えられたらいいかなというのが１点あります。その辺はどのように考えていらっしゃるのか。

それから、ふるさと納税で会員の事業者９社に対して、設備投資の、商品開発の補助金を交付したとありますけれども、設備投資、商品開発、それからラベル・パッケージデザイン開発、どれくらいのお金を一つのそういったところに使われて、それはどういうところからのお金なのか、その辺をちょっと教えてください。

○議長（植田博巳君）

加藤専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

２点につきまして、私から回答させていただきます。

まず、昨年の実績の山梨、長野の誘客数でございますが、これは７月から８月にかけては、商工会様のほうで事業を受託されてやっておりますので、これは全国の一斉開始のタイミングの人数でございまして、その辺りで伸びていないように見えるかなと思いますので。ちなみに、山梨、長野の中でも、甲斐市ですとか中央市、昭和町、甲州市、山梨市というものは当センターと契約を結んでおりまして、向こうの市民の方、町民の方が牧之原市の宿泊施設に泊まっていただくと3,000円の補助というものをしていただいているという中で、今年度は、途中段階でございますが、上限が例えば甲州市ですと150名、８月上旬でいっぱいになってしまっているということで、今年はかなり山梨県、長野県、特に契約市町さんから牧之原市に誘客キャンペーンも含みで、より、例えば甲州市ですと3,000円プラス3,000円、6,000円の割引がお一人効いておりますので、3,000円は市のほうから補助を頂いておりますので、3,000円は、甲州市、山梨市とが出していただいているという中で、本当に昨年を上回る牧之原市にお越しいただいていると。

実際に、すみません、途中段階の数字でございますが、８月の中旬で誘客キャンペーン利用者数が1,215人ということで来ていただいておりますので、山梨ですと16市町からお越しいただいているということで、誘客キャンペーンの多少なりとも効果があると思っております。

また、サーフィンにつきましても、ウェイブプールの事業者様と一緒になって、今、ふるさと納税の返礼品として一緒にチラシ広告をつくらせていただいて、そちらも一緒に訪問した際、お配りさせていただいているということでございますので、サーフィンはやはり人気のこれから注目する競技だと思っておりますので、引き続き事業者とともにＰＲのほうを進めてまいりたいと思います。

もう１点でございますが、設備投資でございますが、こちらのまず、補助の財源でございますが、令和３年度の当センターの収益から出させていただいております。総額160万円ほど、設備投資は上限50万円、２分の１ということで、100万円で50万円の補助と。新商品開発でございますが、パッケージは上限10万円、こちらも２分の１でございますので、20万円であれば10万円の補助と。新商品開発は上限20万円、こちらも２分の１ということで実施をさせていただきました。

こちらは会員事業者様に、通知をさせていただいて、その中で審査をさせていただいたという中で、ふるさと納税に関するものということで、中にはデザイナー様とコラボした商品ですとか、本当新規の事業者様が新しい商品開発で今、ふるさと納税のほうをエントリーしていただいたということで、当センターの収益の中から事業者様にサポートさせていただいたと。

ただ、こちらにつきまして今年度ですが、商工会様等でも同じような開発補助金がございましたので、そこは商工会様ともお話をさせていただいて、開発は商工会様のほうで出していただくとか、商工会様の会員になっていただいて、その補助をもらうだとか、あとは市のほうでもビジネス相談はございますので、そういうところに参加をしていただくようにお話をさせていただいて、当センターでは広告宣伝費という形で、当センターの収益の中から、こちらは市の委託とかそういったものではなくて、当センターの中の費用として出させていただくというところでございます。

私からは以上です。

○議長（植田博巳君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

よく分かりました。すごく、やっぱり努力していらして、収益を上げてくださっている中で、そういったものをやっているということは、すごく大きく広がるかなというふうに思っています。

誘客キャンペーンのことですけれども、ずっとずっと言っている。昨年はきっとコロナの影響もあって少なかったというのはよく分かるんだけれども、お金もこっちからも出しているし、当市のほうでも出していらっしゃるにもかかわらず、今年はすごく伸びているんだけれども、誘客キャンペーンで本当に前は商工会の会長から、市長、副市長なんかもみんな出かけていっているんだけど、爆発的な効果というのはなかなか見込めてこないけど、こういうのはやっぱり地道にやっていかなきゃいけないのかなと改めて思っているんですけどね。

全く違う地域のほうへも、やっぱり声かけとかしていくほうがいいかなと。例えば島田市なんか大学のほうに宿泊なんかをすごくお願いしていて、いろんなスポーツなんかで結構お泊まりに来てくださっているのをたくさん聞いてます。だから、そんなことも考えながら、ぜひお願いしたいなというふうに思います。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

大変いろんな事業をやられていて、コロナ禍でなかなか思うようにいかなかった中で、頑張っていただいて、ありがとうございました。

一つ、花火の寄附金について確認なんですけれども、今年の分の寄附は皆さんところへ集めに終わったんですか。

○議長（植田博巳君）

加藤専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

寄附のほうは、こういった新聞折込みに入れる関係で、すみません、名前等を印字する関係で締切をしてしまいまして、やはりこちら企業の皆様からも、こちらが大事ということで、27日の折込みに入れる関係で、締切とさせていただいております。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

実は10年以上前からだと思うんですけれども、10万円単位で寄附をされてくれた方がいて、それは継続的にやってくれていたと思うんですけれども、実はこの間、いや、今年はもらいに来ないけど、もういいだなという非常に残念なお話で、その辺の寄附されている方の管理というのは

どうなっているんですかね。

○議長（植田博巳君）

加藤専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

寄附につきましては、当センターの会員の皆様方が各エリアに分かれて、寄附を頂きにあがっていただいているというところの中で、昨年、誰から幾ら頂いたかというものも過去の記録もずっと持っておりまして、お断りを受けたところ、来年はもうありませんというところは回らないようにということで、会員も含めて、そこは担当等で寄附を回っていただける方、共有しておりますので、今のお話を聞いて大変残念に思ったんですけれども、寄附に回っていただいている方は当センターの会員の事業者様等になりますので、自分のお住まいのエリアを回っていただいてるというのが実態でございますので、たまたま忘れてしまったか、ちょっとすみませんけれども、その辺り、当センターでは名簿でずっと管理をさせていただいているところでございます。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

もういらないなら、私も来年度以降いいよと言いますけど、もしもらえるものならもらったほうがいいということなら、また予算を確保してもらうには話はしますけど、またそれはお話しください。

それと、この間、私は全協の中でも副市長にも、理事長に確認したんですけれども、要は今、副市長がやっていただいているんですけれども、それと職員の加藤さんにも専務理事ということで、大変な仕事をお二人でやってもらっているんですけれども、これは暫定的なのか、今後、牧之原市としてこういう形でいくのかという、その辺の考え方を少し、まず聞きたいんです。

というのは、先ほども理事長の話で、市との連携をちゃんとしていくという、副市長が市との連携というのも、また違和感があるんです。だから、どうしてもそういう局面が多いと思うんです。それとやっぱり、来年度の予算要求のときも、圧倒的に副市長と専務理事に就いていれば、どうしても予算確保は万全の体制にはなるし、その辺がどうなってるかと少し私疑問があるんですけれども、どうでしょうか。

○議長（植田博巳君）

大石理事長。

○まきのはら活性化センター理事長（大石勝彦君）

私は、今日は理事長という立場で来ておるものですから、理事長としてそういう発言をさせてもらっているところです。

体制につきましては、前回、全員協議会の中で市長がお話をさせていただいたとおりなんですけれども、前の理事長が割と急にやっぱりやめるわというような話があって、そうなると急にはできないということで、そういう体制になるのかということで理事会の中で推薦をしていただい

て、私が理事長になったという経緯であります。

ただ、前回も市長がお話をしたとおり、私も実はこういう活性化センターの仕事というのは、経済的な内容がすごく大きいものですから、そういう点では市内の経済界の方になっていただくのが本当はいいんじゃないかなというふうに考えています。

ただ、例えば事務局長みたいな立場では、これはちょっと締めなきゃいけない部分がどうしてもあるものですから、今の段階ではこういう体制を取らざるを得ないのかなというのは認識をしておりまして、今後、いずれ体制を変えなきゃいけないときがあるものですから、そのときには何とかそういうことで考えていきたいなというふうには私は考えております。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

副市長が理事長をやられているということを、私は批判してるわけじゃなくて、今までの市の考え方と、やはり変わったということで、我々議会も活性化センターを今後、牧之原市はどのようにするという考え方の方向転換があったかどうかは、そこは我々はちゃんと常に考えていないといけないなと思ったので、確認させてもらいました。

というのは、何年前かな、平成28年に元の観光協会、牧之原市の総合観光センターですよね。これが大分組織的に問題があって、我々議会としても予算を認めるときに附帯決議をつけたというようなこともあって、その中でも確認しましたら、当時、早期に適任の事務局長の採用を図りとか、マネジメント体制を整備することということを議会としてもしっかりお願いしている、そういう経緯もあるものですから、これはやはり我々もちゃんと注意しないといけないなということで、ちょっとくどくなりますけど確認をさせてもらっているところなんです。

ですから、我々はよく先進地へ、委員会視察、議会でも視察へ行きますけれども、やはり先進地と言われて、いろんな取組がしっかりいっているところは、かなり専門性を持った市の職員、それに取り組む人というのが、やっぱりいるんですよね。

だから、市の観光はすごい大事な部分だと思うものですから、本当にしっかりそこに座わって仕事をしてもらえる体制が一番いいと思うものですから、理事長と専務理事がせっかくなっていただいたものですから、しっかり基礎を今回これを機会に固めてもらいたいと思うんです。そういったことで、なかなか民間の人にやってもらっていると、市としての考え方をなかなか言えない部分が逆にあったかもしれないです。だから、それを今回、これを機会にしっかりこういう方向でいくということを固めてもらいたいなと、そんなふうに私は思っております。

○議長（植田博巳君）

理事長。

○まきのはら活性化センター理事長（大石勝彦君）

先ほども申し上げたとおり、やはり具体的な実行部隊としては、加藤専務理事兼事務局長を筆頭にして、職員全体７人が一つの方向に向かっていってもらいたいということで、それぞれの職

員に対して必ず目標を持って仕事をどこまでやるかということを考えてもらいたいということを、一番最初のときに私は話をさせてもらいました。

そういうことで、またきっちりと体制を固めて、その次のステップに向かっていくということになろうかと思います。

また、具体的に理事長以下の体制につきましては、どういう体制が本当にいいのか、どういう体制が市にとって一番役に立つのか、そこはみんなで、市と一緒に考えていかなきゃいけない問題であると思っておりますので、具体的に今後しっかりと進めていきたいと思っております。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

そういった中で一つお願いしたいことがあるんですけれども、というのは、先日、市内の観光をやられている観光業者の人と少し話したんですけれども、以前の観光協会の頃は、自分たちがそんなふうに関わっていろんなことがやっていたということもあって、いろんなものがよく見えたけれども、最近、活性化センターになってからはちょっと見えないというようなことなんです。

それは、運営に参画する、しないということよりも、やはり協力してもらわないといけないものですから、当然、市の観光行政に。だから、なるべくその辺も風通しをよくして、いろんな情報が観光関係に協力してもらう皆さんに行き渡るような体制というのを一つお願いしたいなと、そんなふうに思いましたので、よろしくお願いします。

○議長（植田博巳君）

専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

貴重なご意見ありがとうございます。今年度から、私のほうも商工会の観光サービス部会の会議のほうに参加させていただいておりまして、当センターの取組も商工会の観光サービス部会、やはりこちらの人数も多いです。組織もしっかりしておりますので、そちらに私のほうも月１回の会議等に参加をさせていただいて、事業の内容をお伝えさせていただいております。

今までそういうところが足りなかったと思っておりますので、今年度につきましてはそういったところで商工会を含めて会員の皆様に声が届くように、やっていることが届くように取り組んでまいりますので、またそういったご意見がありましたら、教えていただければと思います。ありがとうございます。

○議長（植田博巳君）

今のやつ、商工会も同じような観光部会をやっているということで、一緒に取り組むということだからいいかなと思います。あくまでも一般社団法人なので、民間なので民間の力を発揮していただければと思います。

ほかに。

種茂議員。

○８番（種茂和男君）

今、議長が言われたように、私も活性化センターができるとき、発起人の一人として、今言われたように独立性を持って観光と、それこそ経済の発展を目指すということで、市とはあまり距離を置きながら経済の発展に努めるというような意味合いも、当初、言われていたのと、ここへ来てまたがちがちなのか、市の中での動きがなったのか、本当に定款にもかなりの項目がありまして、すごく分離して独立に何でも牧之原市を利用しながら、発展的にできる会社ができたのかなと思って、これは将来的には牧之原市の発展にはすごくいいものができたなという認識で喜んでいたんですけど、何かだんだん勢いがなくなってくような感じを受けるんですけど、そこら辺の今後の本当に活性化センターとしての、今、議長が言われたように独立した会社制ですか。そういった意欲的なものはあるのか、ないのかちょっと私、最近、分からなくなってきたものですから。

○議長（植田博巳君）

大石理事長。

○まきのはら活性化センター理事長（大石勝彦君）

活性型センターそのものは一般社団法人でありますので、独立した団体であるということは間違いはありません。ただ、やっぱり持っている財源であるとか、あるいは人材であるとか、そういったものは市に比べるとどうしても見劣りがするといいますか、まだまだ足りないものがいっぱいあるというのは実態です。

このために、市内の企業の皆様に理解をしていただいて、今八十数社に会員になっていただいておりますけれども、もっと広げていくということが必要ではないかなというふうに感じております。

そのためにも、先ほど加藤専務から話をさせてもらったとおり、理解をしてもらうために商工会の観光部会といったことも活用させてもらいながら、市内全てのといいますか、全てあらゆる各層の方々に、なるべく理解をしていただいて、その力を私どもにもらわないと実際に動きになっていかないということがあるものですから、そこのところは頑張っていきたいと思います。

そのためには、職員が一体となって同じ方向を向いていくということが必要なものですから、そこの基盤固めはしっかりしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（植田博巳君）

絹村議員。

○３番（絹村智昭君）

今、太田議員のほうからも話が、自分も活性化センターの関係者の方とちょっと話をした中で、理事長というのは先ほど副市長も言われたとおり、民間の方で経営とか、そういうのにたけたほうがいいよ、民間の方がいいよという話もいただいている中で、ぜひそういう中で、今まであった活性化センター長というのは、どうなっているのかというのを聞きたいです。

○議長（植田博巳君）

加藤専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

センター長は事務局長となりますので、私がセンター長という、実際でいうと事務局長というのが職名でございますけれども、私でございます。

○議長（植田博巳君）

絹村議員。

○３番（絹村智昭君）

センター長と理事長が一緒になってやると、何だか行政主導のようなイメージも取られかねるところがあるので、民間の声をしっかりと会員様も含めて各種団体を含めてやっていってもらいたいというお願いと。

あと１点、先ほど濵﨑議員から出た榛原の花火のほうなんですけど、連携してやっていくって、どういう捉え方でいるのか、これから連携していくということを協議していくということなのか、ちょっと教えてください。

○議長（植田博巳君）

加藤専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

お金も実際言うと、花火も今、１割、２割高くなっています。一発の玉の代金もですね。龍眼山の花火も発数は去年の８割しか上がらないと、寄附もなかなか集まらないということでございますので、寄附を一緒に集めるですとか、打上げの水をまいたりですとか、そういった作業も人手がいないということでございますので、１か所にするためにどういう場所でやるとか、お互いどこまでか、お金なのか、人なのか、出し合うのかというものを、これから協議をしていくということで、またお願いしますというお話だけ今、一丁目町内会とさせていただいたというところでございます。

○議長（植田博巳君）

絹村議員。

○３番（絹村智昭君）

一丁目の自分の本当に担当の昔からある花火と、また、静波の昔からある静波海岸の花火大会、これは本当に別物の意味合いを持っているので、そこら辺の関係者としっかり話を取らないと、静波の海の関係者の気持ちもしっかり酌んで、一丁目の龍眼山の花火もしっかり酌まないと、ちょっと変な方向になってしまうと思いますので、しっかり話してもらわないと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（植田博巳君）

副議長。

○15番（村田博英君）

独立法人になってから５年たったということで、私、去年も質問したんですが、予算決算、要するに決算の状況はどうだったかということをご説明願いたい。

○議長（植田博巳君）

加藤専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

決算でいいますと、最終的には、正味財産としましてはマイナス936万円ということで、マイナスの決算が出ています。これについて、ご説明をさせていただきたいと思います。

前年につきましてはプラス 2,300 万円というところだったんですけれども、ふるさと納税の制度が変わったというか、ふるさと納税のほう、返礼品というよりも送料等が値上がりをしたとか、そういったところ、ふるさと納税の事業の収益が減ってしまったというところで、マイナス 900 万円という決算となっております。

○議長（植田博巳君）

副議長。

○15番（村田博英君）

ざっくりでいいので、要するに売上げが幾らで、支出が幾らで、マイナス936万円ということになると思うんですよ。その辺は分かりますか。

○議長（植田博巳君）

加藤専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

では、資産のほうからお話しさせていただきたいと思います。収入というんですか、資産という形でありますけれども、資産合計が3,904万7,643円、負債の正味財産の合計が3,904万7,000円で経常収益の合計が7,338万3,346円、事業費の計が5,831万3,129円、管理費の支出が2,447万9,848円、経常費用が8,279万2,977円ということで、先ほど言いました事業費の5,831万3,129円と管理費の合計8,279万2,977円ということで、先ほどの7,300万円と差引きしますと900万円ということで、マイナスが発生するというところでございます。

○議長（植田博巳君）

副議長。

○15番（村田博英君）

それに対して、５年度はこういうふうにしてるというのがあると思うんですよ。今日はいいですけど。

要は結局、企業ですから、独立法人ですから、まずはそこをやらないと次の投資ができないと思うんです。新しい事業って、ほとんど見ていると、花火大会とかいうのは今までの踏襲事業ですから、寄附金の問題とかいろいろ出てくるので、新しい展開を考えないと、それにはプラス性がないと補助金だけでは到底できないのは、これは自明の理なので、先ほど来から出ている、活性化センターを観光協会から脱却して、次にどうするんだというところは、我々はお二人の手腕

を期待しておりますので、ぜひよろしくお願いしたいです。

時間もないので、これで結構です。

○議長（植田博巳君）

石山議員、どうぞ。

○１番（石山和生君）

私も確認させていただきたいです。市の事業の請負がやはりメインとなってしまっているのが現状だと思ってますが、独自で稼ぐみたいな観点に関しては、どのような思いを持っているのでしょうか。

○議長（植田博巳君）

加藤専務理事。

○まきのはら活性化センター事務局長（加藤　智君）

やはり観光協会というんですか、観光で稼ぐためには売るものが必要と、売るものがなければ収益はないというところでございます。今まででですと、ＲＩＤＥ　ＯＮグッズといったところだと思いますけれども、この売るものの中にお預かりして売る、要は地場産品等、20％等の収益を得るとか、まずそういったところを、一部であっても収益を得るための物を売る、そこからまずやらないといけないというのと、やはりいずれ、先ほど理事長からもありましたように、専門的知識を持った者とか、要は例えば、島田市さんですと大井川鉄道さん等が入っているんですけれども、そういった売るものを持っている方と連携をする、でないと収益はないと思っておりますので、売るものを探していくというのが今の現状、考えているところでございます。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○１番（石山和生君）

探しているというのは何となく分かっているんですが、市の事業の請負ベースで私たちは考えていいのか、独立のところとして独自で稼いでいくぞという前提で見たらいいのか。もし稼いでいくというんだったら、多分物販だけでは全然駄目だと思うんですけど、そこら辺が比重としてどういうふうにこちらは見ていいのか、お聞きしたいです。

○議長（植田博巳君）

大石理事長。

○まきのはら活性化センター理事長（大石勝彦君）

先ほど決算の話で、３年度は利益が出ていたんだけれども４年度はなくなったというのは、実はビジネスプロセス、今の活性化センターの利益を、元はふるさと納税を中心にして利益を出して、それをほかの事業に充てていくというモデルを考えていたんですね。

ただ、それが昨年から、さっきも加藤専務からお話ししたとおり、ふるさとチョイスであるとか様々なサイトの手数料が上がったということと、それともう一方で、国が経費についての厳格化を行ってきたということがありまして、ふるさと納税で稼ぐというモデルはほとんどできなく

なったというのが今の実態ですね。

そういうことから、去年まではその前の年で稼いだもので、ふるさと納税の産品の商品開発とかができたんですけれども、これからはそれができなくなるものですから、真剣にまきのはら活性化センターが請負のみでいくのか、それとも自ら稼ぐ方策をどうやって見つけていくのか、まさにそこを考えていかなければいけない時期に来ているというのが今の状態だというふうに思っております。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○１番（石山和生君）

何かしら多分はっきりしないと、どちらの、例えば請負のほうをメインでやっていこうと思っているのに、市民とか我々が独自で稼がなければとかと、二つぶらぶらしてると結局定まらないというようなことになってしまうんじゃないかというところは心配だというところが１点と、もし独自で稼ぐとかというんだったら、単純に旅行業法とか取って、観光客の集客を流して手数料を取るとかというのは、特に原価もかからないですし、別にできないことないんじゃないかなと思う。これはただの提案ですけど、思いました。

以上です。

○議長（植田博巳君）

大石理事長。

○まきのはら活性化センター理事長（大石勝彦君）

旅行業法の関係は私どももやっぱり考えてはおりましたが、実は私、伊豆市に行ったときも、スポーツ合宿の誘致ということは伊豆市の中でも考えておりまして、そのためにどうしたかというと、おっしゃるとおり旅行業法を体育協会が取ったんですね。それは市の、例えばドームであるとか、体育館であるとか、そういったものを一手に体育協会が担っていたものですから、そこが旅行業法を取って、稼ぐ道をそこで見つけていくということをやりました。

それを我が市に適用しようとするときに、体育協会がいいのか、それとも活性化センターがやるのがいいのか、そういったところは、これからやっぱりちゃんと考えていかなきゃいけないのではないかと思いますので、それらも含めて活性化センターをどうしていくかというのを本当に市も含めて考えていかなければいけないというふうに考えております。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ほかはよろしいですね。

〔「なし」と言う者あり〕

ありがとうございました。

今、大石理事長が言ったように、大変苦しい状況だと思いますけど、またその方向で検討していただければ幸いだと思います。

ちょっと長時間になりましたけど、ありがとうございました。

３　その他

○議長（植田博巳君）

12時を過ぎているので、午後の学校再編をやって、その最後にやらせていただきます。

それでは、お昼をお取りください。

〔午前　12時07分　閉会〕